（要約版）

コンゴ盆地に生きる狩猟採集民の喫煙文化の多様性についての比較研究

大石　高典
（東京外国語大学大学院総合国際学研究院）

共同研究者：　Bernard Aristide BITOUGA, PhD
(Department of Anthropology, University of Douala)

1.　研究目的

コンゴ盆地の熱帯林に暮らす狩猟採集民のたばこ好きは有名で、なぜ彼らがたばこにこだわるのかは多くの研究者の関心を集めてきた。この研究では、人類の喫煙を熱帯林への進化的適応としてみる視点と社会変容への応答としてみる視点を架橋すべく、コンゴ盆地北西部の３つの狩猟採集社会（バカ、バコラ／バギエリ、アカ）を対象に喫煙文化の多様性について調査を行った。

2.　研究方法

①文献調査によりアフリカ各地の狩猟採集社会を射程に入れた喫煙文化についての先行研究を把握し、ピグミー系狩猟採集民におけるこれまでの研究の位置づけを試みた。
②現地調査は、カメルーン東部州のバカ、カメルーン南部州のバギエリおよびバコラを対象に行い、それぞれ約 2 週間の集中的な現地調査を行った。具体的には、喫煙に関わる社会経済条件に配慮しつつ喫煙行動の直接観察、半構造的な喫煙履歴や喫煙行動についての聞き取り調査を行い、喫煙植物に関わる知識についての民族植物学的調査も併せて行った。
③文献調査とフィールドワークの結果を総合して、とくにカメルーンの熱帯林に暮らすバカとバギエリの２集団を中心に、アカやムブティなどにおける先行研究との通文化比較を行った。

3.　結果

バカ、バコラ／バギエリ、そして先行研究（Roulette ほか 2016）のアカの自己回答による男女別喫煙率を比較すると、バカとアカの男性のほぼ全員が喫煙をする一方でバコラ／バギエリの男性には喫煙しない者もいることが分かった（図 1)。また、ジェンダーによる喫煙率の差に集団間で顕著な違いが見られた。最も大きなジェンダー差が見られたのは女性による喫煙がほとんど見られないバコラ／バギエリで、ほぼ男性のみが喫煙していると言って良い。バカとアカは男性の喫煙率はほぼ同じで、ほとんどの男性が喫煙するが、バカの女性はアカの女性よりも 2 倍近くが喫煙をしている。

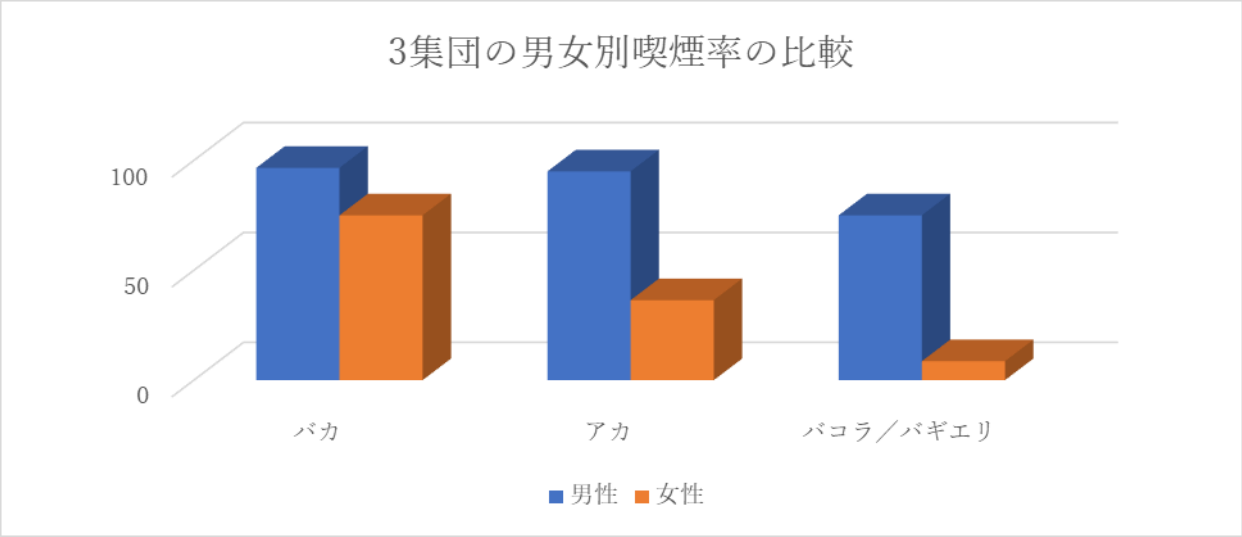

図 1: バカ、アカ、バコラ／バギエリの男女別喫煙率を百分率で示してある。バカとバコラ／バギエリについては本調査のデータを、アカについては Roulette 2016 のデータを使用している。

タバコ以外の野生植物の喫煙率について見てみると、アカとバカでは男性は半数以上が野生植物を喫煙しているが、女性はあまり喫煙しないことがわかる（図 2)。バコラ／バギエリでは、男女ともに野生植物を喫煙する者は一人もいなかった。

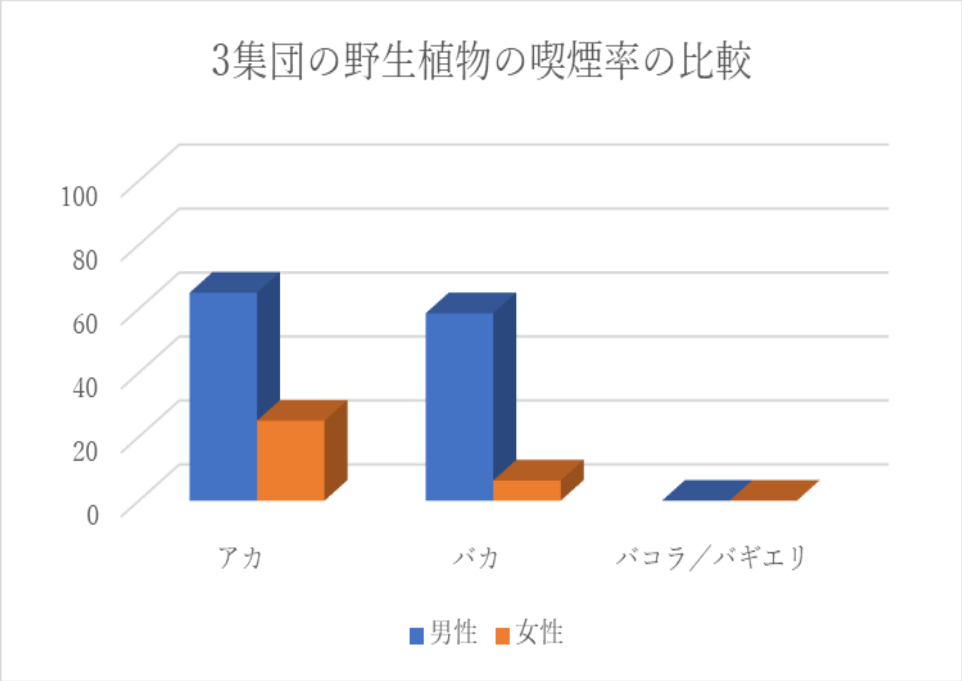

図 2: アカ、バカ、バギエリ／バコラにおける野生植物の喫煙率を男女別に示した。アカについては、Roulette (2016)の代表的な喫煙対象植物である botunga (*Polyalthia suaveolens*)の喫煙に関するデータをもちいている。バカとバギエリ／バコラについては本調査のデータに基づく。

4. 考察・結論

（ポスト）狩猟採集社会における喫煙には、狩猟採集活動や遊動生活など森林に根差した生活文化の側面と市場経済や開発の中で生まれた新たな状況への人々の適応の側面がある。バカやアカでは、森林に依存して培われた民族知識による野生植物の喫煙が見られるが、日常のほとんどを定住生活者として過ごすバコラ／バギエリではそのような慣習は失われてしまっている。バカでは、良き狩猟者たるものは喫煙するものだという狩猟者のアイデンティティに関わるものとして喫煙が捉えられているが、バコラ／バギエリ社会では、喫煙自体を「良くないこと」として忌避する者も少なくない。本研究では、喫煙行動に関するジェンダー差が、バカ、アカ、バコラ／バギエリの 3 集団の間で大きく異なることがあることが明らかになった。とくにバカの女性の活発な喫煙行動については、先行研究を揺るがすものである。調査のサンプリングの問題などを解決して、さらなる検討を進めることが求められる。